

一般社団法人 北海道地域農業研究所

会 報

地域と農業

第 **97** 号

Apr.2015

Spring

連載
新企画

地域農研NOW
「現在の研究所―活動状況をお知らせします」
わがマチの自慢 〓 剣淵町



北の大地を 支える力。

地域に根をはり、全道に広がるネットワーク。
私たちは、農業機械・自動車・燃料などの事業を通じて
日本の食料基地北海道の営農ライフラインを支えます。



株式会社

ホクレン油機サービス

●本社／札幌市厚別区厚別中央1条5丁目1番10号
☎011(892)1551 FAX 011(891)1339

●岩見沢支店／岩見沢市4条東15丁目3番地 ☎0126(22)4421
●旭川支店／旭川市永山2条13丁目1番28号 ☎0166(48)1181
●稚内営業所／稚内市声間4丁目26番12号 ☎0162(26)2111
●網走支店／網走市字呼人382番地 ☎0152(48)2111

「豊かな大地を包みつつける」



ホクレン包材株式会社

代表取締役社長 寺尾 勲

本 社 札幌市中央区北4条西1丁目1番地 北農ビル17階
TEL(011)222-3401 FAX(011)222-5394

工 場 雨竜郡妹背牛町字妹背牛414番地の1
TEL(0164)32-2490 FAX(0164)32-3120

地域と農業 Vol. 97

——目 次——

2 地域農研 NOW 「現在の研究所一活動状況をお知らせします」

6 **みる 観** これからの北海道における農業経営展開の方向について
一般社団法人 北海道地域農業研究所 副理事長・所長 **黒河 功**

14 **Essay** 十勝清水町から
清水町担い手支援アドバイザー **上谷 明美**

18 **レポート** 北海道馬鈴しょ生産安定基金協会及び北海道
澱粉工業協会の取り組みについて
公益社団法人 北海道馬鈴しょ生産安定基金協会 専務理事 **三宅 秀明**
北海道澱粉工業協会

24 **連載** わがマチの自慢 No.5
釧淵町
一般社団法人 北海道地域農業研究所 特別研究員 **西野 義隆**

31 掲示板・お知らせ・DATA FILE



(97号表紙) 「美術館への径 (みち)」 (油彩：F8号)

2014年 大坂 雅博 (当研究所専務理事)

南区にある札幌芸術の森美術館は、7.5 haの広い敷地内に野外美術館などを併設する複合文化施設で、年に何度か訪れる。

第1駐車場から有島武郎旧邸を右手に、坂を下ると視界が開けてドマツの木立が現われる。木立を抜けた先に美術館がある。

この作品では、爽やかな季節の空気感と陽ざし、美術館へ向かう高揚感を表現したいと思った。実際には桜はこの位置になく、高鳴る気持ちの象徴として制作途中から加えたものである。

札幌芸術の森美術館は今年で25年目を迎える。1990年の開館は当研究所と同じ年である。



新企画

現在の研究所 ～活動状況をお知らせします

このコーナーは、当研究所が現在進めている事業を皆様に紹介し、時期ごとの具体的な活動をお伝えする新しい企画です。
第一回目は、出版助成事業、編集委員会の開催、ホームページの利用状況調査などについて紹介します。

・泉谷 眞実氏 弘前大学農学生命科学部

・細山 隆夫氏 北海道農業研究センター水田作研究領域

また、本年度の応募原稿については、学識経験者の方々に、選考・審査をお願いしました。

□平成二六年度 出版助成事業(十一～三月) □

研究所が創設期から継続している、若手研究者の出版を支援する事業に、平成二六年度は二件の応募がありました。

昨年十一月に選考委員会が開かれ、委員から指摘のあった箇所を追記、校正する作業を経て、二件とも助成対象として承認されました。現在出版に向けて最終作業を行っています。事業対象となった研究者(執筆者)は次の方々です。書籍名と内容については、事業完了後に紹介を予定しています。

□編集委員会 開催(二月一六日) □□□□□□□□

会報「地域と農業」は、この春号(第九七号)から通算第一〇〇号に向けて、誌面のリニューアルに取り組んでいます。

会報の読者であり、地域で活躍されている編集委員の方々に集まっていたいただき、特集やレポートなど記事全般について、率直な感想と意見をいただきました。また、「地域と農業」ならではの特集や着眼点、JAや市町村の広報誌では取り上げない地域の課題、などについても有意義な提案を幾つもいただきました。

した。さらに、読者の興味をそそる見出しの工夫などについて、具体的なアドバイスがありました。

「地域と農業」は、シンクタンクの会報ということで、学術的な記事も掲載し、「堅い」イメージになりがちですが、他誌に

はない独自のカラーとして大切に守るべき、とのご意見もいただきました。会議で提案いただいた項目については、できるところから逐次具体化していく方針です。

なお、出席いただいた編集委員は次の方々です。



遠藤浩一氏

貞広樹良氏



中村由美子氏

黒澤不二男氏

- ・ 遠藤 浩一氏 岩見沢市
JA いわみざわ 常務理事
- ・ 貞広 樹良氏 美唄市 貞広農園代表
(農産物生産・直売・加工品製造販売)
- ・ 中村由美子氏 千歳市 酪農家
全道の女性農業者のネットワーク
ク「きたひとネット」事務局長
駒そば亭店長
- ・ 黒澤不二男氏 長沼町 農業改良普及協
会会長 当研究所顧問

ホームページの改良に向けて

利用状況の把握

昨年一〇月に実施した会員アンケート調査の中で「情報の提供方法で良いと思うもの」との設問に対して、「会報」に次いで多かったのが「ホームページ等の活用」でした。今以上に利用される内容とするために、過去三カ年の利用状況を調べてみました。（表参照）

利用回数は（訪問回数、訪問者数とも）年々順調に増加してきていて、年間訪問回数については、二〇一二年対比で二〇一三年は二三％増、二〇一四年は三二％増となっています。年間を通じて比較的安定した利用回数になっていますが、時期的に見ると春から夏にかけての利用が多いようです。（網掛け部分）今後、利用状況をページ別に整理・把握して、訪問回数の多い項目のさらなる充実と、少ない項目の内容改善や画像の追加掲載などを行い、更に利用が増えるようにする考えです。

回会議などの開催経過と今後の予定

三月中～下旬 各種成績書印刷、納入

ホームページ利用状況（地域農研）

年	年 間		訪 問 回 数											
	訪問回数	訪問者数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2014	46,869	18,890	4,399	4,085	4,580	4,772	4,020	3,707	4,599	3,585	3,092	3,199	3,360	3,471
2013	43,628	14,335	2,931	3,202	3,678	4,020	4,927	3,896	3,117	3,154	3,097	3,250	3,243	5,113
2012	35,466	10,087	2,398	2,397	2,744	2,921	3,520	3,326	3,192	2,920	2,881	3,233	3,193	2,742

注：「訪問回数」は実際にアクセスしたのべ回数、「訪問者数」は同一月内に同じ人が2回以上アクセスしてもカウントされない。

HP:<http://www.chiikinouken.or.jp>

お問い合わせ・ご意見は

E-mail:office47@chiikinouken.or.jp

二六日 平成二六年度第五回理事会
三〇日 参与会

四月 新規採用職員（研究職）の就任

下旬 監事監査、平成二七年度第一回
理事会

五月 二八日 平成二七年度第二回理事会

平成二七年度（第二五回）通常総会、
特別講演

※一部未確定の予定もあります。

回 そ の 他

ここに掲載している記事は、印刷発行前の
（三月下旬時点）のものです。

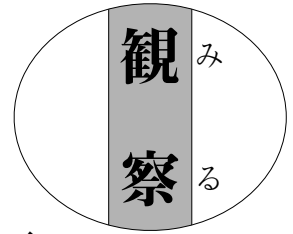
研究会・研修会等への報告者、講師の派遣
と人事異動などについては、これまでどおり、
巻末の「掲示板」「お知らせ」をご覧ください。



平成26年度第5回理事会 3月26日 北農ビル第5会議室



平成26年度参与会 3月30日 北農ビル第4会議室



これからの北海道における農業経営展開の方向について

一般社団法人 北海道地域農業研究所 副理事長・所長 黒河 功

1. 見通しのつかない農業情勢

現時点におけるTPP交渉の見通しについて、米国議会の動向によって日程がずれ込むと報じられているが、わが国の米や畜産物をはじめとする重要品目をめぐる事態は相変わらず予断を許さない状況にある。また重要な懸案事項である農協改革についても、その明確な論拠が示されないままに法制度等の骨格がまとめられてしまった。

現在、わが国の食料・農業・農村における諸問題は、わが国の将来にわたる食料調達のあり方を「百年の計」として、国民に対して明確に示すことができていないことに起因するのではないかと思われるのであるが、その中で、全国の農業・農村現場の動向についてはまったく等閑視しながら、一方的にTPP交渉、農協改革をなし崩し的に進めている状況にあるといつて

も過言ではないと思われるのである。

例えば、平成二六年に北海道地域農業研究所が北農五連からの委託事業として実施した「組合員 経営及びJA事業・運営等に関する意向調査」によると、いまわが国の農家が離農する理由や農業経営で困っていることとして、「TPPの行方など農業情勢・農政の見通しが立たないこと」が第一番にあげられており、わが国の農業政策の方向性とそれに対応した種々の施策が具体的に講じられていないことを端的に示すものである。別の調査であるが、離農の理由として第一番目に挙げられている項目も、同様に「農業情勢・農政の見通しが立たない」である。

このように農業情勢の先行き不明が、わが国の農家戸数・農業従事人口の減少あるいは担い手の高齢化を招き、わが国における農業生産基盤を弱体化させてきたことは間違いないところ

ろである。いずれにしても、いまや国内農業の生産基盤強化を改めて講じていくことが必須の状況にあるといえる。

以上の状況下において北海道農業の役割はますます重要であるといえるが、北海道においても農業労働力が減少するなど生産基盤強化が必要であり、またこれまで政府管掌作目に頼り過ぎてきた感もあるが、これからは自ら環境を整え、条件づくりをしていくという気構えで取り組むに足る可能性は十分にあるとみることができる。

そのためには、自分の地域の持つ特徴・条件などを十分に認識し、それを上手く生かす工夫をすることが重要である。そこで、地域農業構造の核である農家戸数や経営規模などの動向と、地域条件などを活かしていく創意工夫の糸口などについて若干ふれておきたい。

2. これからの農業構造の見通し

(1) 販売農家人口、戸数の動向予測

農林業センサスによれば、農家戸数は平成に入り減少傾向を示してきたが、北海道でも平成二二年（二〇一〇）には、平成二年（一九九〇）に比べ、五一%と半減している。農家人口については農家戸数よりも大きく減少し、同じく一九九〇年対比

で二〇一〇年には四六%に減少している。販売農家の農家人口に占める高齢者比率（六五歳以上）は、二〇一〇年には三二%にものぼり、高齢化がますます進行してきているといえる。

表1～表5は、道立総合研究機構中央農業試験場が、農林業センサス等を用いて「コーホート移動確率」を求めて、今後二〇二五年までの農家戸数・農家人口等の推移について推計した結果である。分析の方法など詳細については、「農林業センサスを用いた北海道農業・農村の動向予測」（北海道地域農業研究所、平成二四年度北農五連委託調査研究報告書、二〇一三年三月）を参照されたい。

推計によれば、販売農家戸数（表1）について、北海道全体で二〇二五年には、二〇一〇年の六〇%にあたる二・六万戸にまで減少してしまい、販売農家人口（表2）についても同じく五四%にあたる九・二万人に減少、そのうち生産年齢人口（一五歳から六五歳）は五一%とおよそ半減すると見込まれている。

農家人口、農家戸数の減少程度は、檜山、上川、石狩、空知振興局など、水田作地帯で大きく、十勝、オホーツクの畑作地帯、根室、釧路の酪農地帯では全体的にやや緩やかな減少値となっている。また二〇〇〇年に入り鈍化していた農家人口の高齢化比率（表3）は再び上昇傾向となり、二〇二五年には檜山、胆振、後志、上川振興局などで四五%、上川中部では五〇%に

表1 販売農家戸数の推移（予測値）

（単位：戸）

	販売農家戸数(予測値)		2010年を基準とした指数			
	2010年	2025年	2010年	2015年	2020年	2025年
北海道	43,749	26,128	100	83	69	60
上川	7,836	4,015	100	80	63	51
空知	7,642	4,000	100	80	64	52
石狩	2,855	1,371	100	78	62	48
留萌	965	514	100	79	63	53
日高	1,832	1,202	100	85	74	66
胆振	2,072	1,283	100	84	71	62
後志	2,763	1,741	100	85	71	63
渡島	2,012	1,197	100	83	69	60
檜山	1,330	716	100	79	65	54
十勝	5,978	4,307	100	88	78	72
オホーツク	4,924	3,220	100	85	73	65
釧路	1,341	934	100	87	76	70
根室	1,479	1,154	100	89	82	78
宗谷	720	474	100	86	73	66

資料：平成24年度北海道地域農業研究所北農5連委託調査研究；道立総合研究機構中央農業試験場生産研究部生産システムG「農林業センサスを用いた北海道農業・農村の動向予測」（2013）から抜粋引用。

表2 販売農家人口の推移（予測値）

（単位：人）

	販売農家人口(予測値)		2010年を基準とした指数			
	2010年	2025年	2010年	2015年	2020年	2025年
北海道	171,774	92,219	100	80	65	54
上川	27,962	12,505	100	77	58	45
空知	29,000	13,258	100	77	58	46
石狩	10,515	4,678	100	76	59	44
留萌	3,469	1,569	100	75	56	45
日高	6,764	3,649	100	80	65	54
胆振	7,239	3,600	100	78	61	50
後志	9,688	5,238	100	81	65	54
渡島	7,547	3,867	100	79	62	51
檜山	4,564	2,201	100	76	60	48
十勝	27,566	18,621	100	87	75	68
オホーツク	21,987	13,018	100	82	69	59
釧路	5,702	3,422	100	83	69	60
根室	6,831	4,915	100	87	78	72
宗谷	2,940	1,678	100	82	67	57

資料：表1に同じ

達すると予測されている。

(2) 経営耕地面積、一戸当たり平均経営面積

表4によると、北海道全体で、販売農家の経営耕地面積は二〇二五年には、二〇一〇年対比八％減の八五・九万haと見込まれている。そのうち、田は同じく十一％にあたる二・三万haの減少、畑は八％にあたる五・六万haの減少が見込まれている。

販売農家一戸当たり平均経営面積

（表5）は、二〇一〇年から二〇二五年にかけて二一・四haから三二・九haと一・五倍の拡大が見込まれたが、そのうち畑作中核地帯、酪農中核地帯での一・二～一・四倍に比べ、水田作地帯の方が一・七～一・八倍とその拡大程度は大きなものと予測されている。すなわち水田地帯では、二〇一〇年の六～一〇haから二〇二

表3 販売農家の高齢者比率の推移（予測値）

（単位：％）

		販売農家の高齢者比率（予測値）			
		2010年	2015年	2020年	2025年
北海道		32.0	32.2	35.0	38.3
上 川		35.9	38.2	42.2	45.3
上川北部		34.7	35.8	38.7	44.0
上川中部		39.0	42.7	48.1	50.1
富良野		30.8	32.2	34.7	37.3
空 知		33.1	34.6	37.6	40.9
北空知		32.7	33.9	37.5	39.4
中空知		37.5	39.3	41.7	43.1
南空知		31.4	32.7	35.8	40.6
石 狩		35.7	35.7	37.7	37.6
留 萌		35.7	36.1	38.9	43.7
日 高		31.5	33.2	38.6	43.7
胆 振		37.2	39.3	42.9	47.0
後 志		34.8	36.4	40.9	45.3
渡 島		34.5	35.5	38.9	44.4
檜 山		36.6	37.9	44.4	48.8
十 勝		28.0	27.3	28.7	32.0
オホーツク		28.4	27.5	30.0	34.0
釧 路		27.3	25.1	28.3	33.5
根 室		23.2	20.0	22.1	26.0
宗 谷		24.0	21.7	25.4	33.2

注）高齢者：65歳以上

資料：表1に同じ

表4 販売農家の経営耕地面積の推移（予測値）

（単位：ha）

	経営耕地面積(予測値)		2010年を基準とした指数			
	2010年	2025年	2010年	2015年	2020年	2025年
北海道	936,503	859,134	100	97	94	92
上 川	106,309	94,232	100	96	92	89
空 知	97,576	88,952	100	97	94	91
石 狩	34,224	30,082	100	96	92	88
留 萌	22,692	20,362	100	96	93	90
日 高	26,502	22,280	100	94	89	84
胆 振	24,466	21,736	100	96	92	89
後 志	26,394	23,046	100	95	91	87
渡 島	17,202	14,898	100	95	91	87
檜 山	15,171	14,497	100	98	97	96
十 勝	208,879	199,374	100	98	97	95
オホーツク	137,896	127,889	100	97	95	93
釧 路	72,080	65,749	100	97	94	91
根 室	100,064	92,972	100	98	95	93
宗 谷	47,048	43,065	100	97	94	92

資料：表1に同じ

表5 販売農家の一戸当たり平均経営面積の推移（予測値）

（単位：ha）

	1戸当たり経営面積（予測値）		2010年を基準とした指数			
	2010年	2025年	2010年	2015年	2020年	2025年
北海道	21.4	32.9	100	117	136	154
上川	13.6	23.5	100	120	146	173
空知	12.8	22.2	100	121	147	174
石狩	12.0	21.9	100	123	148	183
留萌	23.5	39.6	100	122	148	169
日高	14.5	18.5	100	111	120	128
胆振	11.8	16.9	100	114	130	143
後志	9.6	13.2	100	112	126	139
渡島	8.5	12.4	100	115	132	146
檜山	11.4	20.2	100	125	149	177
十勝	34.9	46.3	100	111	123	132
オホーツク	28.0	39.7	100	115	130	142
釧路	53.8	70.4	100	112	123	131
根室	67.7	80.5	100	109	116	119
宗谷	65.3	90.9	100	113	129	139

資料：表1に同じ

五年には一〇（二〇ha）の規模となる
ことが見込まれ、
南北空知では二五
ha前後となる市町
村もみられるよう
になる。

道立総合研究機
構中央農業試験場
によれば、以上の
ように「北海道で
は、今後とも、農
家戸数が減少する
ことが見込まれて
おり、食料自給力
の維持・向上を目
指す立場からは、
大規模経営を育成
することで、北海
道の農地資源を維
持することが重要

である。そのためには、（地元の）農業・農村の動向予測など
をおこない、目標とすべき経営耕地規模を想定したうえで、農
業施策策定や技術開発にあたる必要がある」としている。

3. 地域条件を生かす糸口

(1) 規模拡大条件はあるが多様な経営展開について調査
が必要

以上のように、今後は農家戸数が減少し、二〇二五年には平
均耕地面積が全体的に一・五倍、水田地帯ではそれよりも大き
く一・七〜一・八倍に拡大すると推定されたが、さらに地域全
体としてどのような地帯で、どのように農地流動化が展開する
かについてより詳細にその動向を把握していく必要がある。い
ずれにしても、全体的に大規模化が進展するというわけではな
く、経営条件あるいは経営者の考え方から多様な経営形態が展
開するものと想定され、今後の経営展開についての意向調査が
必要となる。

(2) 担い手確保において農業所得確保への多様な道筋を
示すことが肝要

担い手確保条件を端的に示すならば、何といっても「収益的

な農業経営」「農業所得の確保」「努力や資本投下に対する合理的な報酬確保」などであるから、必ずしも大規模でなくても収益的な経営展開内容を模索することができるように、「規模拡大経営モデル」と「集約的複合経営モデル」の二通りの経営モデルを含めた、地元で展開可能な経営モデルを多様に提示することが必要となってくる。

(3) 稲作プラス野菜果樹作など経営モデルは複合化を基 本に据える

既に見てきたように、道内でも稲作地帯での農業構造は、二〇二五年には農家戸数の激減、さらなる高齢化、全道平均で一〇～二〇haの規模となることが見込まれ、南北空知では二五ha前後となる市町村もみられるようになり、生産調整率が低い地域では水稻作付面積が二〇haを超えることも生じうるとみられた。

近年、北海道米は高い評価を受けるようになり、一定の作付拡大の意義は大きいといえるが、昨今の低米価水準ではそれなりの報酬をうることは困難であり、開拓以来の経歴を誇る北海道稲作であっても、稲単作から脱して収益作目との複合化による転換を図るべきである。これまでのような稲単作農業の展開条件はもはや回復し難いとみえるからである。またその複合化

にあたっては、土地利用、労働力利用などにおける有機的な結合を十分に考慮すべきである。

(4) 地域ブランドの形成・維持発展を図るには優れた営 農技術指導が不可欠である

平成二六年度（第五五回）の我孫子賞には、共和町農業開発センター技術指導員である高橋敏幸氏と帯広市川西農協理事の泉吉廣氏のお二人が受賞された。高橋氏は「らいでん西瓜およびらいでんメロンのブランド育成等の営農技術指導に尽力」されてきたこと、泉氏は「ばれいしょ、にんじん及び緑肥作物などによる有機農業の取り組みや地域の担い手育成に貢献」されてきたことが表彰の理由である。

このように、共和町を例にとれば、高橋氏の指導の下、地域が一丸となって取り組んでもたらされた高付加価値の「らいでんブランド」があることによって、中小規模経営が多い共和町でも以下のような生産組合の存在によって、多様な複合経営が成立してきている。かつて「ひとつの部門で一億円の売り上げが達成できれば、産地として成功といってよい」といわれたが、共和町のこのようなブランド内容は、他の地域からみるとたいへん羨ましい財産であるといえる。

このように、地域特産物など地元農業に関する専門家や営農

技術指導者の存在は貴重な財産であり、そのような有用な人材を確保することがたいへん重要である。

(5) 新商品開発・販売のための技術革新

複合的経営組織化において、さらなる付加価値を高め、あるいは評価を得ようとするならば、これまでのように生産して売るだけではなく、何らかの加工を施して新商品の開発を試みて、新しい顧客を掘り起こしていく必要がある。いわゆるプロダクト・アウト型からマーケット・イン型への進出である。

すなわち、これまでも生産過程における技術革新は「プロセス・イノベーション」といわれ、例えば省力のための大型機械化施設化、あるいは最近ではロボット技術の開発などとして

「らいでん」ブランド：37億円（H25）の内訳；

らいでんメロン生産組合（178戸：271ha）：20億5千6百万円

らいでん米麦生産組合（327戸：1,668ha）

らいでんスイカ生産組合（84戸：大玉115ha、小玉スイートキッズ5ha）

らいでんマダーボール（19戸：7ha）

らいでん馬鈴薯生産組合（130戸：280ha）

らいでんスイートコーン生産組合（115戸：115ha）

らいでん南瓜生産組合（50戸：20ha）

なされてきたが、これからはそれらに加えて生産されたものに加工を加えて新商品を提供するという「プロダクト・イノベーション」についても、六次産業化として農業においても推奨されてきている。

(6) 家族経営による六次産業化の実現

平成二六年二月末現在、北海道における六次産業化総合事業計画で認定された件数は丁度一〇〇件であるが、そのうち、大手の法人とは異なって個別経営展開の延長上で、家族労働力あるいは地域の有志で有限会社化を図るなど、単品ながら良質をブランドとして、いくぶんマイペースではあるが、消費者に直接働きかけていくという動きもみてとれる。

それら家族的経営の特徴をみると、経営の歩みとして共通的に循環型農業を心がけてきており、結果的に有機農産物、エコファームなどを売り物にしていること。また事業者のプロフィールとして、新規参入者でも既存農家の後継者でも、若いころから幅広い知己や視野・知識などを得てきているという共通項をもつことが分かった。さらに規模拡大・事業化・法人化などで苦心する点は、労働力確保と労働の周年的稼働方向の工夫、設備投資などへの資金調達、煩雑な会計業務などであり、このことはJAや行政など関係機関の支援体制が必要であることを示して

いる。

いずれにしても農業における六次産業化は、政策による推進の趣旨はにおいて、自分自身が創意工夫して形作れるものであり、積極的に活用する形で参入を図ってみる価値はあると思われる。また事業計画が認定された一〇〇件のうち過半は家族経営を基本形とする農業経営体であり、北海道の大多数の農家にとっても十分参考になるモデルといえる。

4・農協など関係機関の役割

さて、先にあげたように、北海道地域農業研究所が北農五連からの委託事業として実施した「組合員による組合員経営およびJA事業・運営に関する意向調査」は、全道の農協組合員一・五万人以上からの回答を得たが（回収率三六％）、それによると、JAの営農指導・支援事業にとくに求めること（二つ選択）については、「経営改善指導・支援（経営分析、農業税務、法人経営対応など）が二七・八％と、二位以下の「技術改善指導・支援」「労働力不足対策（雇用労働力確保）」「農用地の利用調整」「担い手の確保・育成」「農業機械の有効活用対策」などの項目を抜いて（これらも極めて重要課題であるが）、第一位となっている。

また、JAが積極的に取り組むべき事業として、「六次産業化」が北海道全体として三二・七％と、「生活・福祉関連」「農畜産物輸出」「非農業関連事業」の項目を抜いて、ダントツ第一位に上っている。

このように今後ますます農協や行政の支援体制が切に望まれており、例えば、コスト管理を始めとする経営管理の指導・支援体制の確立、地域の協同化、法人化、春から秋まで多様に展開する農作業に関わる労働力確保と労働力配置、多様な経営形態を視野に入れた地帯ごとの土地流動化の把握と土地利用計画あるいは地域の六次産業化への支援と、中央の農政を俟つまでもなく、地元の関係機関の指導や果たすべき役割はきわめて大きいものといわざるを得ない。

今後の農業展開はますます多様化したものになるとみられるが、このような多様な農業経営を支援していくこと、地域としてまとめていくことは、地域農協以外にはなしえなく、これまでに以上に必要とされていくものといえる。

十勝清水町から

清水町担い手支援アドバイザー

上 谷 明 美

はじめまして！十勝清水町で畑作農家をしております上谷明美と申します。

平凡な農家の嫁の私が縁あってこのような文章を書かせてもらうことになりましたが小さい頃から勉強が嫌いでも今さら文章を書こうにも句読点の使い方にも苦勞するレベルです。

「楽しく」をモットーに身近な事について書いていきたいと思しますので皆さんお付き合ってください。

◆ 今の十勝

三月とは思えないほど今年の十勝には積雪が多いです。先週はビートのポット入れ、にんにく畑の融雪など春の作業が始まりました。冬眠でお腹の周りについたチャンピオンベルトが作業に支障をきたしましたが久しぶりの外の空気に心がわくわくしました。

ビートの芽が出ると四月下旬の移植にむけて水やりと温度管理の毎日です。小麦畑も雪解けが進み、もう少しで畑一

面が緑のじゅうたんでおおわれます。春がきた！今年もがんばるぞ！

◆ さてさて

農家、三人の子の母親という立場での私が今、一番考えることは（食について）です。昨今、TPPや異物混入によ



上 谷 明 美 (かみや あけみ) さん



農業（十勝清水町）

昭和43年生まれ 福島県出身

14年前、憧れの北海道に嫁ぐべく婚活。

見事に射止めた（？）夫と夫の両親と子供3人の7人家族で小麦、ビート、小豆、金時豆、かぼちゃ、にんにく、スイートコーンなど36haを耕作しています。

趣味：刈払い機での草刈り…ホームセンターに行くと刈払い機が気になって仕方ありません。

る商品回収など食にまつわる問題が多くなっています。中国では人口増加に伴い、オーストラリアやアメリカから大豆や牛肉などの輸入も増えています。このままでは今まで日本に輸入されていた分まで中国向けになり、輸入に頼りすぎていた私たちはいつか食べるものに困るのでは…と心配しています。今、日本人は食べ物、物の事、食べる事を真剣に考えなければならぬ時期なのだと思います。そこで今回は食にまつわる私の思いを書いています。

◆ 鍋が嫌い!?

私は宴会での鍋が嫌いだ。鍋料理は大好きなのだが宴会で遠慮しながら食べる鍋はこの世から消えても良いと思っている。

帰り際に 煮込まれてぐったりした鍋の中身をみると悲しくなる。

二時間前には大皿の上で「今日の鍋の主役よ…」と輝いていた牡蠣や海老がう

まみ成分を放出し、やせ細り、白滝や白菜にからまれながら鍋のすみっこに埋もれている。

二〜三個しかない具材は最初に気のきいた人がポンポンと取り分けてしまえばよいのだが、自分で取ると遠慮合戦の末、誰にも食べられないという悲惨な結末になってしまう。

気の合う仲間との宴会の場合には、「もったいないから食べちゃうよ」とか「みんなで食べちゃおうよ」など、すんなり声も出るのだが、気心の知れない相手との宴会では大食いの私でも（やたらと取り分けて、おせっかいだと思われるのも嫌だし、鍋をきれいにさらえて大食いと思われるのもちよつと…）と遠慮してしまい冒頭のようにテーブルの上で悲しい結末をむかえた鍋の中身にあやまりつつ店を出るはめになる。

◆ 好き嫌い

遠慮して残されるのも悲しいのだが



最近は大人でも好き嫌いが多すぎて食べ残しが増えている事に驚く。私よりだいたい年上の人が恥ずかしがりもせずに「あれも嫌い、これも食べられない」と言って食べ残しをしているのを見ると「ああ日本は豊かなのだな」と思う反面「大人なのだから我慢して綺麗に食べなさいよ」と思う。食育が必要なのは大人なのだが、今更、効果がな

いので子供に食育をするのだと以前、栄養士さんに聞いたことを思い出した。

せめてわが子は好き嫌いのないように育てたい：と努力はするものの 長女は豚肉が苦手だし 次女も（ちまちま）と苦手なものを私の皿に載せてくる。

唯一、私の願いが叶い末っ子の長男だけは 好き嫌いなく食事を楽しんでくれるので頼もしい。朝は起きるとすぐに「今日は卵かけご飯を食べる」と台所に立つ。小学二年生にしては手さばき良く

雄叫びをあげる息子を見ると私も幸せな気持ちになる。

もちろん給食も楽しみにしていて、毎日「今日はあれがおいしかった」とか「おかわりをした」とか報告してくれる。人気のメニューはおかわりの希望者が多いので（じゃんけん）に勝てばおかわりができるらしいのだが（食い意地の神様）が息子に微笑むらしく、かなりの確率でおかわりをゲットしているようだ。よくよく聞いてみるとご飯もおかずも牛

卵を割り、どんぶりいっぱいのおかけご飯をつくる。最近（エアリー卵かけごはん）という白身を先に混ぜてから黄身をいれる フワツとした卵かけご飯にはまつている。口いっ

ぱいにごはんを頬張り「うんめえ」と

◆ スーパーで

乳もおかわりしているようで二人前をたいらげているようだ。給食費は一人前しか払っていないのだから息子の成長はどこかの家庭にお世話になっていると思うと参観日などでは誰かれ構わずにお礼を言いたくなる。

大人の好き嫌いとともに最近、私が気になるのは消費期限や賞味期限での食品廃棄です。スーパーに行くと「二割引」や「半額」のシールがベタベタと重ね張りされた食品たちが（買って捨てるれちゃうよ）と私に訴えかけているようであつという間に買い物カゴがいっぱいになってしまうのです。

消費期限は品質に変化があるので仕方がないとしても賞味期限はあくまでも美味しく食べられる目安なのでその日を過ぎたら食べられなくなるわけでもない。私は賞味期限が切れたものを食べてもお腹もこわさないし具合が悪くなったこ

ともない。昔は食べ物の痛み具合は匂いを嗅ぎ食べてみて判断していた。四〇代以上の人は酸っぱくなった味噌汁や怪しい匂いを出しはじめたカレーを食べた経験があるはずです。日付ばかりを頼りにして判断ばかりしていたら人間がもっている体の中の危機管理能力も衰えてしまうだろう。

毎日大量の食品が捨てられると思うと豊かになり過ぎた日本が数年後、数十年後にどんなしっぺ返しにあうのかと不安になる。未来の日本を案じつつ買い物をしていると遠くから大きな声で「お母さん、こっちにも半額の商品が沢山あるよ」とわが子の声。

（ケチなわけではないんです、もったいないからです）と心の中で言い訳しつつ慌ててわが子を黙らせた。

◆ 食べ物の記憶

私の故郷は福島県の阿武隈山系に囲まれた田村市というところです。

ご存じのように今の福島は原発事故の影響で大変な苦勞をしています。田村市は原発のある大熊町の隣なので市の一部の地域は避難地区になっていました。放射能の影響も大きく、米をはじめ農産物は食べることや売ることがむずかしくなったものもあります。

私は小さい頃から沢山の山の幸を食べて育ちました。春は筍に山菜、初夏の梅みょうがにしいたけ、秋には柿やぶどうにりんごと季節が廻ればあたりまえに食べられていた物が今は食べられません。放射線量を測り数値が低ければ食べることはできますが幼い頃のように（お腹がすいた）と学校帰りに柿の実をもいで食べたりすることはできないのです。

夕暮れまで思いっきり遊んで腹ペコの帰り道、近所の家々からもれ出す夕飯のいい匂い。とたんにお腹がグーグー鳴りながら家について夢中で食べた温かいご飯のおいしさは今でもしっかりと思い出すことができます。

醤油がこげた香ばしい匂いの焼きおにぎり。大きな鉄鍋いっぱいのおきんぴらごぼう。具沢山の豚汁。母や祖母がせっせと作ってくれた食べ物の記憶は何十年たっても私を幸せな気持ちにさせてくれる。食べること、食べられる事の喜びを日本人はいま一度思い出し子孫に伝えなければならぬ。

◆ 未来へ

夕方になると子供たちからの「今日のご飯はなに？」攻撃。しつこいのでいらしながら台所に立つのだが、夕食後に空っぽになったお皿と満足そうな家族の顔をみると明日のご飯は何にしようか…とまた元気が湧いてくる。

いつかわが子も我が家の食卓を思い出し温かい気持ちになってくれるだろう。そして将来、子供たちが食べ物に困らぬように今年も大切に畑を守っていかうと決意を新たにす。

北海道馬鈴しょ生産安定基金協会 及び北海道澱粉工業協会の 取り組みについて

公益社団法人 北海道馬鈴しょ生産安定基金協会
北海道澱粉工業協会

専務理事 三宅秀明

一・各協会組織の沿革

北海道馬鈴しょ生産安定基金協会は平成五年に設立され、二〇年を迎えました。

設立以前の北海道の馬鈴しょでん粉は、過剰な生産が繰り返されていました。そのような状況の中で、産地から生産安定化対策及び需給調整対策を求める声が高まり、行政、生産者、JA、系統団体、澱粉製造業者等の理解を得て、社団法人北海道馬鈴しょ生産安定基金協会が設立されました。平成二〇年に公益法人改革三法が施行され、二六年四月に公益社団法人として再発足致しました。基金協会は北海道、JA、各連合会、商系が会員となり、現在五九会員・十二名の役員で構成されております。

一方、北海道澱粉工業協会は昭和四〇年の設立から、五〇年を迎えました。道内でん粉工場の合理化ならびに流通対策を推進し、でん粉事業の振興と農家経営の安定を図ることを目的として設立されました。JA、でん粉工場を中心に、現在三七会員二一名の役員で構成されております。

表 平成26年度 生産流通振興事業課題一覧表

事業の区分		課 題 名	調査研究機関
試験 研究 事業	品種改良に係る試験	1. DNA マーカーなどを利用した馬鈴しょ遺伝資源の特性評価	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
		2. 初期世代からの馬鈴しょ疫病抵抗性系統の選抜強化	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
		3. でん粉原料用馬鈴しょにおける低離水率・低リン含量系統の選抜強化	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
		4. DNA マーカーによる馬鈴しょ耐病虫性品種の開発強化	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
		5. でん粉原料用馬鈴しょにおける多収品種の開発強化	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
		6. でん粉原料用有望成系統の主産地適応性検定試験	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
		7. でん粉原料用有望系統「北海105号」の大規模栽培試験および実規模でのでん粉製造評価	独立行政法人農研機構 北農研センター
	病害虫に係る試験	1. ジャガイモモットトップウィルスの定量評価にもとづく塊茎褐色輪紋病の発病リスク診断法	独立行政法人農研機構 北農研センター
		2. ジャガイモ粉状そうか病菌の遺伝的多様性と病原性の関係解析	独立行政法人農研機構 北農研センター
		3. 馬鈴しょに発生する重要ウィルスの病原性解明と検出技術の実用化	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
	栽培技術開発に係る試験	1. でん粉原料用馬鈴しょの収量低減要因解析事業	一般社団法人 北海道地域農業研究所
		2. でん粉原料用馬鈴しょ「コナユキ」の安定多収栽培法の開発	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
		3. ばれいしょ新品種「北育20号」の安定多収栽培法確立と現地実証	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
		4. ジャガイモシストセンチュウ対抗植物の安定栽培法の開発	独立行政法人農研機構 北農研センター
調査研究 事業	でん粉需給に関わる市場調査	1. 北海道産でん粉需給に関わる調査研究	株式会社朝日アグリ

二・事業概要

公益社団法人 北海道馬鈴しょ生産安定基金協会

① 研究助成事業、② 普及啓発事業、③ 需給調整事業の三つの事業を柱に取り進めております。

① 研究助成事業

馬鈴しょの安定生産を目的とした品種改良、病虫害対策、栽培技術開発と、でん粉需給に関する解析に向けて、公募による助成事業として実施し、直面する課題解決に向け事業展開を図っております。

二六年度は一五課題（表参照）を取り進めております。

② 普及啓発事業

道内馬鈴しょ及び馬鈴しょでん粉の安定的生産及び生産性向上に寄与するため、生産者、JA、でん粉工場、関係機関などを対象とした講習会等を実施し、馬鈴しょの栽培技術、新品種開発、流通動向に係わる各種情報の普及啓発を図っております。

馬鈴しょ講習会は本年で二二回目の開催となり、馬鈴しょの安定生産に寄与すべく毎年一回札幌で開催していましたが、直



でん粉貯蔵サイロ（南十勝農工連）



でん粉製造工場（土幌澱粉工場）



排水処理設備（小清水澱粉工場）



でん粉精製設備（ビホロ農工連）

近三年は連続して主産地である網走と十勝で開催しております。

③ 需給調整事業

馬鈴しょ及び馬鈴しょでん粉の生産見込みを立てて需給調整に関する調査検討を行い、馬鈴しょでん粉の供給量が前年を大幅に上回って需給に不均衡が生じた場合、均衡を図るべく調整保管事業を取り進めます。

二六年産におきましては一〇、〇〇〇トのでん粉の調整保管を実施して市場より隔離し、販売体制への支援を行っております。

北海道澱粉工業協会

①原料対策事業、②工場対策事業、③需要開発事業の三つの事業を柱に取り進めております。

会員でん粉工場の後方支援として、排水、臭気対策、工場運営コスト低減、フードデیفENSEスや製品の品質及び衛生管理等の指導を主業務とし、会員ならびに関係団体、研究機関と連携し、協力を得て事業推進と諸対策の普及に努めております。

① 原料対策事業

でん粉専用品種「アスタルテ」「プレバレント」を協会とし

て導入し、作付面積は現在約一、〇〇〇haで、主にオホーツク地域で栽培されています。全道のジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種面積の三分の一を占めています。今後も病害抵抗性、高収量を目標としたでん粉原料専用品種の作出と、併せて海外優良品種の探索・導入を図り、種子・製造・製品（加工）の一貫体制の確立を目指してまいります。

② 工場対策事業

系統一〇工場の問題課題を整理し効率化及び省力化を進め、工場運営コスト低減に向け取り進めています。また製品や排水の分析管理と排水処理試験も進め、安全性と諸問題に対し取り進めております。

③ 需要開発事業

消費宣伝の実施、講習会の実施・参画及び新規需要開発推進を取り進めております。

三・馬鈴しよでん粉の情勢

国内のでん粉の需要量は約二六八万t（平成二三でん粉年（度）で約八六％がコーンスターチです。国産馬鈴しよでん粉の

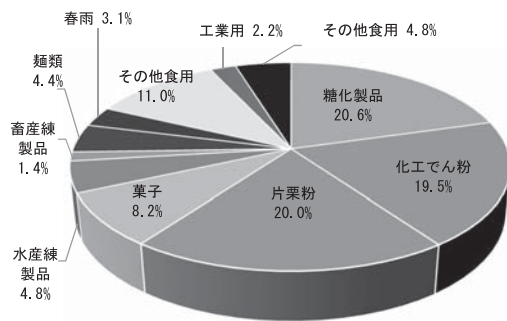
需要は一六万八千tでウェイトは約六％程度です。そのうち約十一万tが固有用途（食品用）ですが、冷凍・レトルト製品は耐冷凍や耐熱性が求められるため、化学的に特性を付加した化工でん粉の需要が拡大しております。また、即席麺、菓子、水産・畜産練製品の分野でも、より安価なタピオカ化工でん粉の需要が拡大しております（図1参照）。

このような厳しい需給環境に拍車をかけたのがここ数年に渡った産地としての供給量不足です。平成二一年産から二〇万tを切り二二年産で一六万八千t迄減少したため調整販売の実施を取り進めざるを得なくなりました。結果として、馬鈴しよでん粉使用メーカーの輸入化工でん粉への切替を拡大することとなってしまい、供給不安を理由に馬鈴しよでん粉の需要は減少を続け、ここにきてようやく回復の兆しとなってきております。（図2参照）

この供給不足、生産量減少に至った要因は、多々ありますが、作付面積減少に加えて、天候不順や病害虫、土壌問題、ライマシの低下などが考えられます。

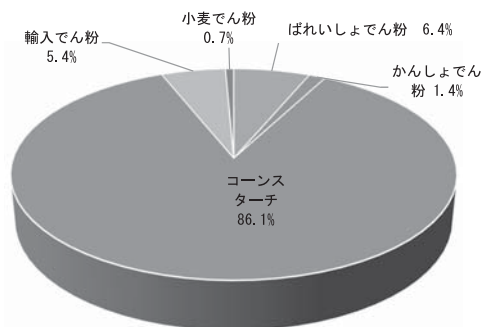
四・今後の取り進め

馬鈴しよでん粉の安定生産・安定供給体制の再構築が急務と



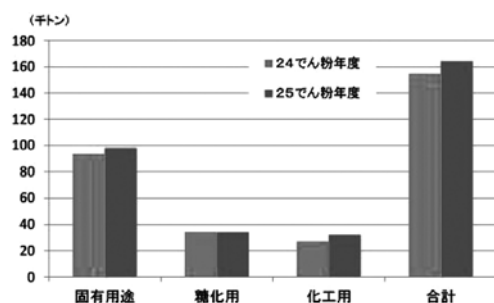
資料：全国農業協同組合連合会の推定による。

図1-2 国内ばれいしょでん粉(農協系統)の用途別需要量の割合(平成25でん粉年度)



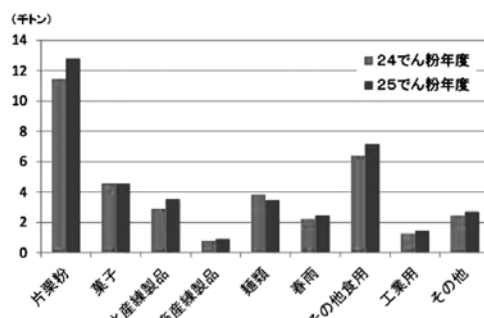
資料：農林水産省

図1-1 国内でん粉供給量の割合(平成24でん粉年度)



資料：全国農業協同組合連合会の販売実績

図2-2 国内産ばれいしょでん粉(農協系統)の用途別販売数量



資料：全国農業協同組合連合会の販売実績

図2-1 国内産ばれいしょでん粉(農協系統)の固有用途の用途別販売数量

なり、JAグループの「馬鈴しょでん粉の安定供給体制確立に向けた検討プロジェクト」の活動をはじめ、行政、試験場、関係団体が一体となり、体制の構築に向けて取り組んでおります。

検討の中で、安定生産・安定供給には、ジャガイモシストセンチュウ対策が最重要課題であり、シスト抵抗性品種の早期普及拡大が急務とされております。でん粉専用品種作付における抵抗性品種の割合は現在二〇％ですが、これを平成三四年には一〇〇％にする目標を設定して、取り組んでおります。

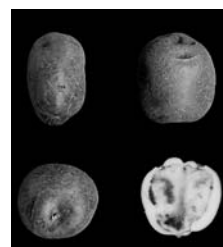
北海道馬鈴しょ生産安定基金協会が取り進める二六年度の研究助成事業の中でも、一五課題のうち三課題は抵抗性新品種に係わる試験研究であり、後続品種の適応性検定試験も取り進めております。

平成二五年より一般栽培されております「コナユキ」の安定多収栽培に向けての試験、平成二九年から一般栽培となる「コナユタカ(北育二〇号)」の安定多収栽培法の確立と現地実証試験、さらに同年に一般栽培となる「コナヒメ(HP〇七)」の特性試験を二七年度より実施、平成三〇年より一般栽培となる「北海一〇五号」の大規模栽培試験及び実規模で

「コナユタカ（北育20号）」の塊茎
 ＊「コナユタカ」の塊茎は球型で、母親の
 母親である「ムサマル」に似ています。



シストセンチュウ
 抵抗性品種「コナユキ」



の調査を進めており、遺伝資源において各病害虫抵抗性遺伝子の有無の実証を行い今後の育種における原資とすべく研究も取り進めております。

さらに、近年、早期枯凋症状が散見されて問題となっていることから、この調査分析を（一社）北海道地域農業研究所と連携して取り進め、併せて土壌構造調査の実施にあたり大学との共同調査の取り進めも行っております。

北海道澱粉工業協会としてはでん粉工場としてさらなる効率化とコスト削減が課題であることから各工場とさらに連携し諸対策を講じるとともに排水、臭気対策も永遠の課題であることから、排水処理のコスト低減も含めたアナモックス細菌による窒素除去試験を取り進めております。

このように馬鈴しょ及び馬鈴しょでん粉を取り巻く状況は課題が山積し、解決に時間を要するものも多いのですが、両協会ともに、少しでも馬鈴しょ及び馬鈴しょでん粉の安定生産に寄与すべく、今後も取り組んでまいります。

のでん粉製造評価を実施し、抵抗性品種への早期普及と安定生産に繋がるよう取り進めております。

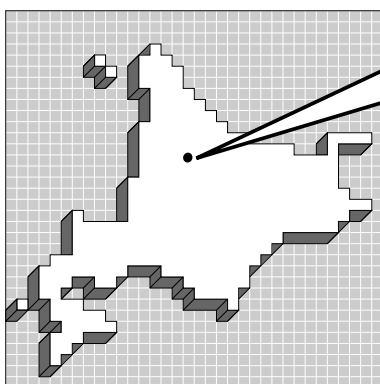
また、病害虫関係ではシロシストセンチュウの国内侵入が今後の大きな脅威となっていることもあり、北海道立総合研究機構と連携して、病害抵抗性DNAマーカーを利用した遺伝型



【西側から眺めた剣淵町】

わがマチの自慢第五回は、剣淵町を取り上げ、里の風景、絵本のある町、心の豊かさを大切に行っている町をテーマに紹介します。

連載 わがマチの自慢 No. 5



剣 淵 町

—絵本と福祉と農業が
一体となった
文化を創造—



【大地康雄さん（©「じんじん」製作委員会）】

俳優^{だいちやすお}大地康雄さんは自身の主演映画の上映会で北海道を訪れた際、剣淵町出身の知人に招かれ、予定外の剣淵町を訪れた。

1. スローシネマ^註「じんじん」を知っていますか？



【撮影風景 (©「じんじん」製作委員会)】



じんじんくせ! 剣淵町!

人・夢・大地、やさしき愛でる絵本の町「剣淵町」
 剣淵町、剣淵町の歴史を「じんじん」が伝える。剣淵町、剣淵町の歴史を「じんじん」が伝える。剣淵町、剣淵町の歴史を「じんじん」が伝える。
 剣淵町の歴史を「じんじん」が伝える。剣淵町、剣淵町の歴史を「じんじん」が伝える。剣淵町、剣淵町の歴史を「じんじん」が伝える。
 剣淵町、剣淵町の歴史を「じんじん」が伝える。剣淵町、剣淵町の歴史を「じんじん」が伝える。剣淵町、剣淵町の歴史を「じんじん」が伝える。



絵本の里 剣淵町

<http://www.jinjin-town.jp/>

【映画「じんじん」ポスター】

田植や畑の種まきが真っ盛り
 の時期だったが、町民がエキストラ出演や炊き出しなど約三カ月にわたって撮影を支えたのである。山田大樹監督は「町民皆さんの優しさや豊かな田畑、そして満点の星空。剣淵町だからこそ完成した映画でした」と最大級の謝意を述べた。映画が公開された平成二

大地さんは、農家の人が農作業の合い間に「絵本の館」で学校帰りの子供たちに絵本の読み聞かせをしている場面に遭遇し、目を輝かせて聞き入る子供達に酷く感動し、「絵本を通じて、人間に必要な優しさや思いやりを伝えることができ

るのでは」と考えたという。

この映画「じんじん」は、二〇一一年三月十一日東日本大震災を経て、絵本が結ぶ人と人との絆を表現しようと企画したものであり、「剣淵町が絵本に夢と希望を託したように、人の心の優しさと親子の絆をテーマに、楽しく、そして切なく心に染みわたる映画を日本中に届けた」という思いが込められている。剣淵町の実名、剣淵町の絵本の里大賞、絵本

まつり、絵本の館等がそのまま映画の中に使われ、つまり、剣淵町の現実がありのまま映画の中に登場し、笑い涙と感動の世界が描かれている。映画のナレーションは「伝えなければならないこと受け止めなければならないこと そんな大切なことを絵本が教えてくれました」と語る。

この企画に賛同した映画人、剣淵町の協力で平成二四年五月に撮影が始まった。

五年春以降、剣淵町への観光客は増加し、平成二五年度には道の駅「絵本の里けんぶち」の来客数が初めて五〇万人を超え、ロケ地見学者も相次いでいる。また、全国各市町村議会による視察件数は、映画公開前の平成二四年度は三件だったが、二五年度一三件、二六年度は二七件に急増した。

スローシネマ方式^⑤による全国上映運動は、公開から丸二年で五〇〇カ所、観客数二〇万人に到達する見込みとのこと。なお、この映画は平成二六年五月末に「第13回イマジン・インディア国際映画祭マドリッド」(スペイン)において大地康雄さんが最優秀主演男優賞を受賞、九月には厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財に選ばれた。

(注) 劇場公開だけに頼らず、ひとつひとつの県・市・町・村などで実行委員会を立ち上げ、数年をかけてゆつくりと各地のホールや公共施設で地域上映会を行っていくという公開方式の映画。

2. 剣淵町は…

剣淵町の人口は、昭和二九年の九、五三〇人をピークに減少し、平成一七年一〇月(国勢調査)三、九五二人、平成二七年二月一日現在三、三五八人となっている。六五歳以上の住民は約三五・八%を占め、高齢者の割合が高まってきている現実がある。

剣淵町は総面積の約半分を占める農耕地(五、七四〇haうち田三、二五三ha、畑二、四八七ha)を基盤とする農業を基幹産業とし、総就業人口の約四割が農業に従事しているが、年々この割合が減少している。主要な作物は、米、小麦、豆類、じゃがいもなどで、特にじゃがいもは、食用のほか、町内にある上川北部農協合理化澱粉工場ででん粉に精選され、また、加工用として大手食料品メーカーに出荷されている。特に平成二五年から「じゃがいもプロジェクト」を立ち上げ、



【剣淵町を上空から撮る】

名産地となるよう町を挙げて振興に努めている。

剣淵町の農業は、昭和四〇年代後半から昭和六〇年代前半までに実施した大規模な灌漑排水事業、土地基盤整備事業や大型機械の導入により、経営基盤の強化が図られている。しかし、米の生産調整をはじめ、農産物の輸入自由化など、農業施策の転換や後継者、担い手不足等で

大変厳しい状況下にあり、担い手対策が求められているところである。

工業は、第一次生産品の加工が主流であり、昭和五八年には地場産品加工研究センターと、平成一〇年には農産物加工研究施設（食のふる里館）を建設し、その施設を利用して地場の農産物を活かした加工品（トマト・にんじんジュース、味噌等）を地元の催しや市場に出荷している。

3. 絵本の里づくりへ

剣渕商工会青年部は昭和六三年二月に士別市在住の銅版画家小池暢子氏を招き、まちづくり講演会を開き、「小さな農業の町らしい文化のまちづくりをしませんか」との提言を受けた。

同年五月に教育委員会の支援を受け、当時児童図書編集長であった松居友氏を招き、「フランス、ドイツの田園風景にどこか似ていて、絵本の持つ自然や生命



【絵本の里大賞の1コマ】

を大切にする心を持った人たちが暮らすこのまちに絵本原画美術館ができたらしどんなに素晴らしいことか。そうすれば、絵本をとおして世界中の人々との交流が生まれるはず」とのアドバイスを貰い、翌六月に有志による「けんぶち絵本の里を創ろう会」が設立され、活動が始った。この活動に町も応え、ふるさと創生事

業資金の半額を充てる町の計画に対し、農業の苦境を訴える声などの反対意見があったという。しかし、創ろう会の努力は次のものに結実している。

(1) 「けんぶち絵本の里大賞」の創設

前年度一年間（前年四月一日から三月三十一日まで）に日本国内で出版された絵本であることを応募条件とし、平成三年より創設された。募集期間に応募された絵本の中から、投票期間（八月一日から九月三〇日までの二カ月間）に「絵本の館」来館者により、好きな絵本五点以内を選んでもらい、一番得票を得た作品が大賞となる。

この賞は、専門の作家や知識者の選考ではなく、一般の読者（子どもから大人まで）によって選ばれる、どこにもないユニークな絵本賞である。

二四年の歴史を重ね、広く絵本作家や絵本出版社に知られるところとなり、毎年約三〇〇点の応募作品が「けんぶち絵

本の館」の所蔵作品となる仕組みである。

投票期間中は、絵本の館に所蔵する貴重な原画や絵本作家の原画などの展示会、読み聞かせ会などを併せて開催している。

(2) 「けんぶち絵本まつり」

「けんぶち絵本の里大賞」を受けて、翌年二月の第三土曜日から三月の第三日曜日までを「けんぶち絵本まつり月間」として、けんぶち絵本の里大賞各賞作品

の絵本原画展、「けんぶち絵本の里大賞授賞式及び歓迎レセプション」や「受賞作家によるお話し」などを開催している。

特に歓迎レセプションでは、受賞作家による絵本の読み聞かせ、サイン会なども開かれ、普段接することのできない著名な絵本作家との交流が楽しめる。

(3) 絵本の館

昭和一九年に建造され公民館に転用されていた旧役場庁舎を改修し使用していた(旧)絵本の館が老朽化したため平成

一六年に新築された。

新・絵本の館はバリアフリーとユニバーサルデザインの考え方を基に平屋建てとし、授乳室や多目的身障者トイレを設け、積雪寒冷地に対応した無落雪、深夜電力利用の蓄熱式床暖房を採用し、内

敷地面積：8,684.00㎡

延床面積：1,798.11㎡

構 造：鉄筋コンクリート造り、一部鉄骨造り及び木造の平屋建て

費 用：622,294千円（北海道補助金100,000千円あり）

設計費 18,165千円

用地取得費 6,950千円

建築・機械・電気設備費 559,928千円

備品・その他 37,251千円

目ざす機能：ア 絵本の図書館
イ 絵本の美術館
ウ 子供絵本ミュージアム
エ 絵本の里の交流体験施設
オ 地域づくりと産業活性化支援施設

蔵 書 数：一般書、児童書と絵本など66,400冊余り



【絵本の館・内庭】

部の仕様は木や土壁のぬくもりと優しさと暖かさ、天井高による空間の広がり、演出、開放的な窓からの自然採光の利用などに配慮している。

間取りは、大きな中庭に面した通路を周回しながら、好きな絵本や一般書に出会ったり木の遊具で遊んだり、おはなし会や工作教室に参加したり絵本原画展や

コンサートを鑑賞したりと、いろいろ巡る楽しみ、にぎわいや出会いを意識したとのこと。軽食喫茶「らくがき」やロビー、雑誌コーナー、小上がりなどの休憩スペースも随所に配置してある。

屋外空間は、周囲の芝生スペースに、安心して外遊びもできる中庭、青空や夜空がぐっと近くなる屋上の芝植栽付きの読書テラスなどもある。

備品類は、旧館のものを最大限に利用し、書架配置は可能な限り子供や車いす利用者に配慮し、貸し出し用の車椅子、ベビーカー、ベビーチェア、ベビーベッド、ベビーシート、高齢者対応の読書肘掛けイス、拡大読書機等を新たに配備し、人に優しい施設を目指している。

新・絵本の館は、こうした考え方に基づく建物が評価され、平成二二年に一般社団法人公共建築協会の公共建築賞・優秀賞を受賞した。

4. 次の世代へ

剣淵町西原地区に、社会福祉法人「剣淵北斗会」による障害者支援施設「剣淵西原学園」、「剣淵北の杜舎」があり、両施設一帯を「西原の里」と呼び、剣淵粘土を使用した陶器づくり、農産物づくりなど、地域の人々と一体となった活動を進めている。この「西原の里」は、絵本の里づくりの重要な推進役を果たしてきた。当初は、「西原の里」の福祉ネットを通じて絵本の里のPRを行い、けんぶち焼きや、さをり織りの絵本の里体験メニュー、絵本の里福祉フォーラム、西原の里芸術展などの事業に関わり、その他に「けんぶち絵本の里クリスマスゆうパック（絵本）」を平成七年から事業として取り組んだ（平成一九年頃終了）。絵本の館内の「喫茶・らくがき」は障がい者の自立と社会参加の場として西原の里が運営を担っている。

絵本の里らしい自然や人に優しい農業を実践し、安全な農産物を消費者に届けようと、まちの農業者が無農薬・低農薬（有機栽培）の生産者団体「剣淵・生命を育てる大地の会」を平成二年二月に結成し、全国の農業者、消費者との交流を進めている。絵本作家のデザインによるポスターやパッケージを作成し、安心で真心を込めた、付加価値の高いじゃがいも、かぼちゃなどを全国に販路を拡大している。「絵本の里大賞」の副賞には剣淵産のおいしい農産物が贈られ、受賞者には大変喜ばれているとのこと。

平成二六年度地産地消優良活動表彰において、「絵本の里けんぶち VIVA マルシェ」が農林水産大臣賞（地域振興部門）を受賞した。

ただ黙々と作物を作るだけの農業は面白くない。みんなで何かに挑戦しようとの思いで、平成二二年四月に農協青年部員一三人で直接お客様がいる所へ軽トラックで出向いて、農産物等を販売する

「軽トラマルシェ」を開始した。活動を拡げていく中で、農協青年部員等がこの活動に自主的に参加しやすいよう、平成二四年に「絵本の里けんぶち VIVAマルシェ」に改組した。平成二五年一月に「軽トラマルシェ」を商標登録することにより、信頼度・信用度が増し、商



【絵本の里けんぶち VIVAマルシェ】

品のブランド化が図られた。受賞の理由は、地域農業の振興に貢献するとともに地産地消の核となっている組織であり、今後の発展・活躍が大いに期待できることである。

剣淵町には他に冷凍加工品等をつくる女性グループ、地場のものを利用した加工研究会などの組織があり、元気な生産者の活動の成果がまだまだ期待できる下地がたくさんある。

剣淵町で子育てをしたいという家族が現れ、絵本と福祉と農業が一体となった文化を創造し、絵本の持つ「温もりと優しさ」に触れ、「思いやりのある豊かな心」を育んでいくことが町民すべての願いなのである。

（以上、剣淵町提供資料及び北海道新聞記事より抜粋）



【けんぶち桜岡湖水まつりの賑わい】

〈取材後記〉

旭川から北へ、私には過酷なイメージのある塩狩峠を越えた先に、日本人が忘れかけている原風景がある。スローライフが似合う絵本の里を訪れてみませんか。

一般社団法人 北海道地域農業研究所

特別研究員 西野義隆



研究会・研修会等への

報告者・講師の派遣

(平成27年1月～3月)

○「平成26年度JAにじ職員研修会」

主催 JAにじ(福岡県)

とき 平成27年1月15日

テーマ 協同組合の意義・役割とJAの在り方

講演 太田原 高昭

(当研究所・顧問)

○「平成26年度人づくり研修会」

主催 JA筑紫(福岡県)

とき 平成27年1月16日

テーマ 協同組合の意義・役割

とJAの在り方

講演 太田原 高昭

(当研究所・顧問)

○「平成26年度十勝地区JA役員研修会」

主催 平成26年度十勝地区JA組合長会

とき 平成27年1月18日

テーマ 戦後北海道の農協の歩み―十勝を中心に

講演 太田原 高昭

(当研究所・顧問)

○「土別農作業支援対策研修会」

主催 JA北ひびき

とき 平成27年1月26日

テーマ 農業・農村が直面する課題のなかでとるべき選択肢

講演 黒澤 不二男

(当研究所・顧問)

○「平成26年度JA非常勤理事研修会」

主催 JAカレッジ

とき 平成27年1月28日

テーマ 農協の大義

講演 太田原 高昭

(当研究所・顧問)

○「平成26年報徳人づくりムラづくり研修会」

主催 公益財団法人北海道報徳社

とき 平成27年1月28日

テーマ 二宮尊徳の人物像と現代的解釈

講演 黒澤 不二男

(当研究所・顧問)

○「平成26年度役員支部長研修会」

主催 JASマイル(東京)

とき 平成27年2月2日

テーマ 都市農協の役割と改革課題

講演 太田原 高昭

(当研究所・顧問)

○「平成26年度総代研修会」

主催 JAめむろ

とき 平成27年2月5日

テーマ 協同組合の意義・役割とJAの在り方

講演 太田原 高昭

(当研究所・顧問)

○「平成26年度十勝食と農のつどい」

主催 食と農のつどい実行委員会(帯広)

とき 平成27年2月11日

テーマ 農協改革の真意を問う

講演 太田原 高昭

(当研究所・顧問)

○「平成26年度女性部研修会」

主催 JA北ひびき

とき 平成27年2月19日

テーマ 政府の農協改革をどう

見るか

講演 太田原 高昭

(当研究所・顧問)

○「地域再編整備事業意見交換会」

主催 北海道開発局室蘭開発建設部

とき 平成27年2月20日

テーマ 伊達市農業の構造と今後の展開方向

講演 黒澤 不二男

(当研究所・顧問)

○「平成26年度冬期講座」

主催 JA十勝池田町

とき 平成27年2月27日

テーマ 農協改革と協同組合の目的

講演 太田原 高昭

(当研究所・顧問)

○「平成26年度農政講演会」

主催 いわみざわ地域・農業

活性化連絡協議会

とき 平成27年3月10日

テーマ 今後の農協の在り方と農業経営

講演 太田原 高昭

(当研究所・顧問)

○「平成26年度空知地区研修会」

主催 農民連合北海道

とき 平成27年3月21日

テーマ 農協改革の現段階と農協の大義

講演 太田原 高昭

(当研究所・顧問)

人 事 異 動

<新 任> 平成27年4月1日付



研究部

専任研究員 山 口 和 宏
(農学博士)



研究部

専任研究員 しん 申 どん 鍊 ちよる 鐵
(農学博士)

お 知 ら せ

第25回（平成27年度）通常総会の開催

開催日時 平成27年5月28日（木） 午後1時より

開催場所 北農ビル19階 第2～第4会議室
札幌市中央区北4条西1丁目

提出議題

議案第1号 平成26年度事業報告並びに収支決算について

議案第2号 平成27年度役員報酬額の決定について

議案第3号 平成27年度会費の賦課及び徴収方法（案）について

議案第4号 役員の選任について

通常総会特別講演会の開催

開催日時 平成27年5月28日（木） 午後3時（通常総会終了後）

開催場所 北農ビル19階 第2～第4会議室
札幌市中央区北4条西1丁目

講演テーマ 「**身土不二の原理 黒澤西蔵翁**
生誕130年を記念して」（仮題）

講師 学校法人 酪農学園
学園長 **仙北 富志和**



DATA FILE

関連事項／DATA

公益社団法人 北海道馬鈴しょ生産安定基金協会
北海道澱粉工業協会
〒060-0004
札幌市中央区北4条西1丁目1番地
共済ビル

☎ 011 (232) 6560
FAX 011 (222) 1794

剣淵町役場
〒098-0392
上川郡剣淵町仲町37番地1号
☎ 0165 (34) 2121
FAX 0165 (34) 2590

一般社団法人 北海道地域農業研究所
〒060-0806
札幌市北区北6条西1丁目4番地2
ファーストプラザビル7階
☎ 011 (757) 0022
FAX 011 (757) 3111
HP: <http://www.chiikinouken.or.jp>
E-mail: office47@chiikinouken.or.jp

◆ 編集後記 ◆

●今冬は、例年雪の多いと言われる地域で少なく、あまり雪の降らない所で記録的な大雪となった。オホーツク海や道東沖で台風並みに発達した爆弾低気圧が、またかというような頻度で発生し、ディズニー映画アナ雪のスクリーン

を観るがごとく地域住民や経済に多大な影響を及ぼした。学校は休校でいいなと思っていたが、しっかり補講となり、がっかりした生徒も多かっただろう。温暖化の影響とも、氷河期に向かっていているという説もあるが、今年もやっと、「あつたかいんだから」といえる春のスクリーンに切り

替わりだ。
●北陸金沢まで新幹線が開通し、石川・富山県では、いろいろなイベントで賑わっている。北海道函館へはあと一年だ。交通網のインフラ整備は確実に進展している。海で隔てられた地域が地続きとなることには、大きな意味がある。また、高速化で行動範囲が広がることで従

来にないメリットが生まれる場合も多い。けれど、逆に、見過ごされてしまうもの、失ってしまうものも多くなるのではないだろうか。普段の生活拠点で必要

なことを棚上げし、一時的な賑わいから各地域で呼び込み競争をしているが、最後は大都市の一人勝ちとなるのが高速化・グローバル化の末路に見える。地域のつながりや助け合いという社会インフラなしに地域振興はない。日常の日々は、そんなに広範囲ではなく、またあまり速くない方が健康的な気がする。
●今回から新コーナー「地域農研NOW」をスタートした。当研究所の近況をわかりやすく紹介する場で、会員のアンケート調査や編集委員のアドバイスを基に企画している。今後も通算一〇〇号に向け、誌面のリニューアルに取り組んでまいりたい。

(片岡 省二)

Meat Packer Incorporation

安全・安心な食肉を
真心こめて
全道6工場から
全国の皆様へ
お届けします。



株式会社 北海道畜産公社

代表取締役社長 山内 啓二

本社 〒060-0004 札幌市中央区北4条西1丁目 共済ビル3階
TEL (011) 242-4129 FAX (011) 242-2929

印刷媒体を通して、お客さまの
お役に立つ企業を目指します

デザインから印刷・製本まで
一貫した社内体制で、
それぞれのニーズにお応えします

 富士プリント株式会社

本社
〒064-0916 札幌市中央区南16条西9丁目
TEL (011) 531-4711 FAX (011) 530-2549
URL: <http://www.fujiprint.co.jp/>

東京支店
〒102-0072
東京都千代田区飯田橋3-11-20 山田ラインビル2 4階
TEL (03) 3261-2613 FAX (03) 5211-8235



おいしい北海道、読んでみませんか？

ホクレン情報誌

GREEN



定期購読
無料

A5版サイズ
年6回(奇数月1日)発行

季節の料理メニュー、北海道産品のおいしさの秘密、産地情報や旬の素材をお届けする通販コーナーなど、おいしい情報盛りだくさんの「GREEN」を、ご応募いただいた方全員に無料でお送りいたします。

お申し込み方法

●ハガキの場合

「GREEN希望」と明記し、住所、氏名、年齢、職業、電話番号をご記入の上、次の宛先へお申し込みください。

〒060-8651

札幌市中央区北4条西1丁目3

ホクレン広報宣伝課

「GREEN」J係

●ホームページからも

<http://www.hokuren.or.jp/greenweb/>

までどうぞ。

お客様の個人情報に関しましては、厳正なる管理の上、本誌の発送のみに使用させていただきます。

安べも、そのままに。

とれたてのおいしさ、そのまま。

育った土のぬくもりも、そのまま。

作った人の気持ちも、そのまま。

私たちホクレンは、おいしさといっしょに

安心への努力も、できる限りそのまま

お届けしたいと願っています。

おいしいも、あんしんも、この大地から。

 **ホクレン**